

学校関連の活動・行事への 住民の参画について



文部科学省

令和4年4月19日



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

PTA団体における取組事例

①「お父さんの子育て講座」の実施 (高知県高知市立かがみ幼稚園PTAの取組)

取組内容

- ◆女性のPTA会員から「母親だけでなく父親も学ぶ機会を」という要望を受け、「お父さんの子育て講座」を開始。父親が参加しやすい日時に開催することで、子育てに関する知識を得るだけでなく、父親同士が交流し、つながりを持つ機会となっている。

取組による効果

- ◆子どもが幼稚園に通っている時から父親同士が交流し、つながりを持つことで、小学校以降のPTA活動も活発となり、協力体制が形成されている。



(お父さんの子育て講座の様子)

②「お父さん・お母さん授業」の実施 (京都府京丹後市立峰山小学校PTAの取組)

取組内容

- ◆事業所や商店を営んでいる保護者を講師として招き、実習等を交えながら子供たちと学習を行っている。授業当日は参観日を兼ねて実施している。また、実施する際はPTAの狙いや運営について情報を共有しながら実施している。

【参考：令和2年度の授業内容】

1年生 インドアキャンプ 2年生 プログラミング体験 3年生 障害ってなんだろう
4年生 都道府県のクイズ 5年生 手話 6年生 ふとんの話

取組による効果

- ◆多種多様な分野で活躍する保護者を先生として迎えることで、普段と異なる授業の雰囲気を作り、子どもたちの知的好奇心を高める良い機会となっている。
- ◆参観日に実施することで、子どもたちのみならず会員同士の学びの場となっている。



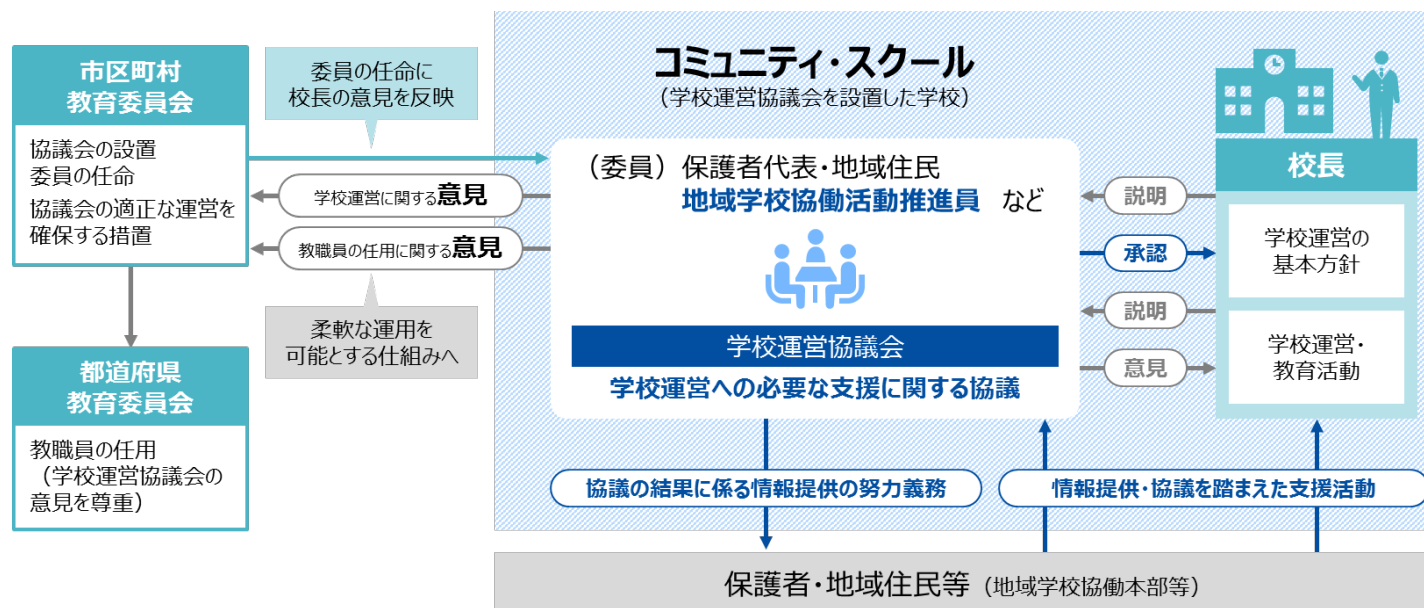
(お父さん・お母さん授業の様子)

▶ 制度概要

コミュニティ・スクールは、地域全体が組織的・継続的に動ける連携・協働体制

コミュニティ・スクールとは、保護者や地域住民等が参画する学校運営協議会を設置し、地域と連携・協働しながら学校運営に取り組む学校のこと

→ **地域と学校が目標や課題を共有し、「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組み**



【コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の制度的なメリット】

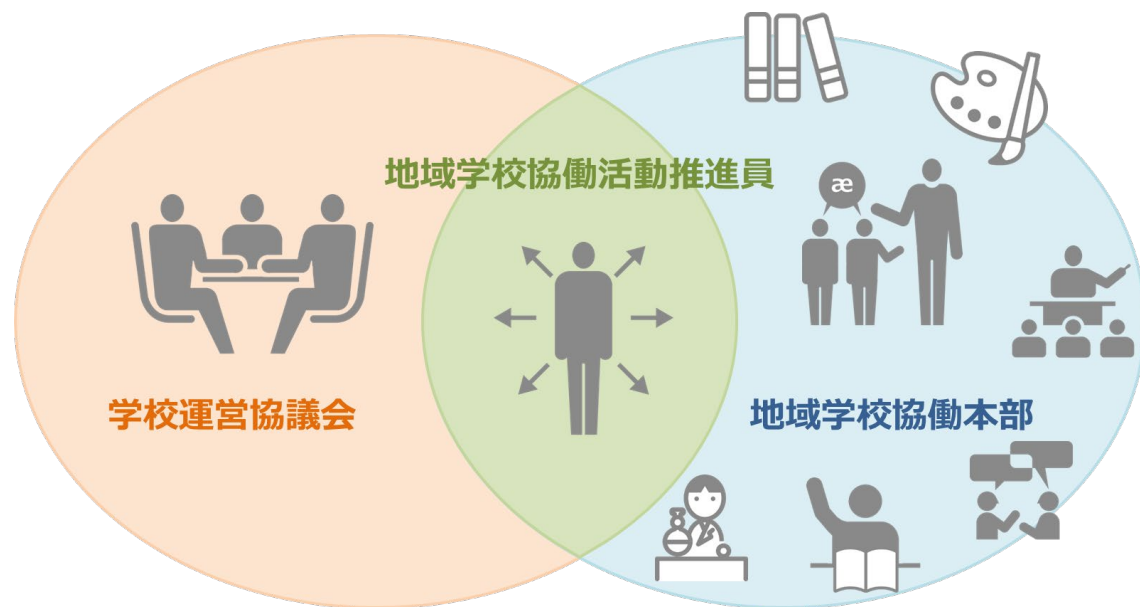
- ① 持続可能性 → 個々人のつながりだけではなく、**組織的・継続的な関係**
- ② 社会総掛かり → **目標や課題を共有**し、関係者**全員が当事者**に
- ③ 協働 → **熟議**により、誰かがやるのではなく**地域全体で実現**に取り組む

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動[※]の一体的推進により、学校を核に地域を再構築

(※ 地域と学校が連携・協働して行う、子供たちの成長を支える様々な取組・活動)

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することで、

- これまでそれぞれで活動していた**地域・団体等が「緩やかなネットワーク」(地域学校協働本部)**を形成
- **共通の目標や課題のもと、一緒に、または連携して活動**ができる



- コミュニティ・スクールが、地域と学校、そして地域そのもののつながりを強化（地域学校協働本部の活性化）
- 地域学校協働活動（本部）の取組が、コミュニティ・スクールの目標に向けた活動を具現化
- 両者を**一体的に推進することで相互の効果を高め合う効果**も

オンラインでの学校運営協議会の開催

(三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会／東京都三鷹市)

取組の概要や経緯

- ◆ 三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会は、3校（1 中学校・2 小学校）の学校運営協議会で、23名の学校運営協議会委員（うち2名は地域学校協働活動推進員）と4名の事務局員の合計27名で構成されている。
- ◆ 年度当初に学園の経営方針と各学校の経営方針の承認を行う委員会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期を余儀無くされていた。しかし、経営方針の承認をできるだけ早く行うべきとの判断から、地域側からの提案により一部リモートによる委員会開催が実現した。

内容

- ◆ 各校長と学校運営協議会会長、副会長、事務局、市教育委員会担当者が小学校に集まり、その他の委員はリモートで参加。
※ 小学校への出席者も3密にならないよう対策を講じた。
- ◆ 現在各学校が行っている感染症対策や具体的な学校の対応方針が共有された。
- ◆ 協議により、学園の経営計画に新型コロナウイルス感染症対策の徹底に関して盛り込まれることになった。

ポイント

- ◆ この状況だからこそその協議を行うことができた。
- ◆ 学校運営協議会の会長が中心となりWEB会議の環境を整えるなど、新しい取組に前向きな委員が多かった。

参加者の声

- ◆ 前例にとらわれず「今できること」を委員と学校で熟慮した結果、コミュニティ・スクール委員会で「新しい生活様式」を体現する素晴らしい取組になった。
- ◆ リモートであっても、顔を見て情報・意見交換ができ、結論だけでなく、そこに至る経緯も知ることができたことで、「お互いの信頼関係」が一層深まった。



今後の方向性

- ◆ 学校運営協議会のリモート開催の試みについては、今回の感染予防対策に限らず、今後も協議・情報共有等の手段としての活用や、コミュニティ・スクールの活動に、より幅広い地域人財の参加を促す契機となる可能性が考えられる。これらの可能性を踏まえて、今後について模索していく。